

あいあいあい

I eye 愛

2019年
3月号



あいコープ組合員 笠田さん

あいコープ 高橋正人専務理事

花見園 大須賀木さん 大須賀裕さん

平成31年、あれから8年

専務理事 高橋正人

「平成最後の」という言葉が、新しい元号を迎えGW10連休も相まったお祭り騒ぎの代名詞となったことに、否定はせずとも違和感を覚えます。

元号とは別の節目、津波が町とヒトの運命を変えた日、福島をフクシマに変えた日、「3・11より前か後か」が私の人生では最大の節目となりました。

津波や放射能被害により、家業を「辞める決断」をした生産者があり、多額の借金を作り「続ける覚悟」をした生産者もいます。

あれから8年、「続ける覚悟」の先には、輸送費や資材の異常な高騰に加え、今年10月の増税も重なり、生産の現場では2重苦3重苦にさらされています。

あいコープみやぎが「ある」ということはどういう価値があるのか。生産者の努力や想いだけでは「安全なものを作る」ことが続けられない時代に、組

合員が協力して生産者を買って支え、食の自給と安全を守ること、それを続けられること。これが、「3・11より後」にも、あいコープみやぎが「ある」ということです。

震災直後、白黒印刷の紙1枚で再開したカタログ「まんま通信」も、15%減少した組合員数も「3・11より前」の状態に回復し、今年度ようやく震災前の供給水準に到達、8年間の歴史によりやくひとつの区切りを作ることができる見込みです。

そして今年、あいコープみやぎは40周年を迎えます。あいコープみやぎが「ある」ことで、これまで組合員や生産者と積み上げてきた食の安全、福祉の推進、環境の保全、それをさらに発展させる責務、このことをしっかりと受け止め、「あれから8年」、私たちは次の元号を迎えます。

「平成最後の」という言葉が、新しい元号を迎えGW10連休も相まったお祭り騒ぎの代名詞となったことに、否定はせずとも違和感を覚えます。

元号とは別の節目、津波が町とヒトの運命を変えた日、福島をフクシマに変えた日、「3・11より前か後か」が私の人生では最大の節目となりました。

津波や放射能被害により、家業を「辞める決断」をした生産者があり、多額の借金を作り「続ける覚悟」をした生産者もいます。

あれから8年、「続ける覚悟」の先には、輸送費や資材の異常な高騰に加え、今年10月の増税も重なり、生産の現場では2重苦3重苦にさらされています。

あいコープみやぎが「ある」ということはどういう価値があるのか。生産者の努力や想いだけでは「安全なものを作る」ことが続けられない時代に、組

合員が協力して生産者を買って支え、食の自給と安全を守ること、それを続けられること。これが、「3・11より後」にも、あいコープみやぎが「ある」ということです。

震災直後、白黒印刷の紙1枚で再開したカタログ「まんま通信」も、15%減少した組合員数も「3・11より前」の状態に回復し、今年度ようやく震災前の供給水準に到達、8年間の歴史によりやくひとつの区切りを作ることができる見込みです。

そして今年、あいコープみやぎは40周年を迎えます。あいコープみやぎが「ある」ことで、これまで組合員や生産者と積み上げてきた食の安全、福祉の推進、環境の保全、それをさらに発展させる責務、このことをしっかりと受け止め、「あれから8年」、私たちは次の元号を迎えます。

CONTENTS

- ▶ 震災から8年 ……1
- ▶ シリーズ生産者が語る 一緒に歩んだ40年① ……3
- ▶ 遺伝子組み換えアレルギー鑑賞報告 ……7
- ▶ ゲノム編集署名緊急提出集会 ……2
- ▶ 宮城の地産地消を守ると決めた2011 ……4・5
- ▶ ていねいなくらし 寒仕込みの味噌 ……8

有機栽培への挑戦

2/7(木) 2018年度農法研究会 研修会報告

2019年2月7日(木)、宮城県仙台市の作並温泉・岩松旅館にて、2018年度農法研究会が開催されました。県内外の産直産地生産者47名、生協関係者13名の総勢60名が参加。今回のテーマは「有機栽培への挑戦」。その基礎となる「土づくり」に焦点をあて、(株)ジャパンバイオファームの小祝政明氏を講師に招いた学習会でした。

「農薬や化学肥料を多投せずとも、おいしくて栄養価が高い農産物を栽培できる」という一言に、目を丸くする生産者たち。植物の茎や葉、根の形成に必要なセルロースの由来、細胞を形成するたんぱく質の供給源、それらを保持できる「土づくり」と堆肥の重要性、微生物の働きなど、簡単な植物生理に沿って解説。「有機栽培こそ、多収で高品質」となるメカニズムを、全国の生産事例を交えながらわかりやすく説明いただきました。講演の最後に、「理屈は

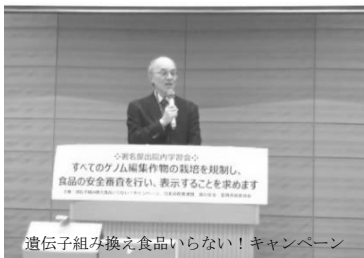
簡単。あとはいつから取り組むか、が大事ですよ。」との一言には、生産者もドキッ！学びだけで終わらないよう、釘も刺されています。「組合員に喜んでもらえるものを届けたい」という思いは生産者も生協も同じです。今回の学習会を受け、天候「異常」が「通常」になりつつある中で、安定的に品質のよい作物を出荷していくためには、「土づくり」を基本とした農法の確立が必要不可欠だと感じました。ともに考え、ともに歩むことのできるのも、「産直」の力。この学びが、商品を通じて体感できるよう、産地と2人3脚のチャレンジを続けていきたいと思っています。

商品部 農産担当
高橋翔



ゲノム編集食品は安全か

1/29(火) ゲノム編集署名緊急提出院内学習会



代表 天笠啓祐氏

昨年末、あいコープは「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」をはじめとする3団体が呼びかけたゲノム編集に関する緊急署名に賛同し、署名活

動を展開しました。1月29日、衆議院第一議員会館で、緊急署名提出院内学習会が開催され、集まった署名を提出してきました。(署名を受け取ったのは厚労省、農水省、環境省、消費者庁)署名は団体署名139、個人署名21492筆、(うちあいコープ集約が964筆。〆切後も署名は集まり続け、現在1011筆)ネット署名1266筆でした。各団体の組織を鑑みると、想定で200万筆をこえるのではないかとされています。急な署名活動ではありましたが、わずかな期間でここまで署名が集まるというのは、どれだけ消費者が不安に感じているかの現れです。

この署名は、『ゲノム編集技術による作物や食品』について規制もせず安全審査もせず、そして表示の検討もあやしいまま今国会でG Oサインを出そうとしていることに対して異議を唱えるものです。ゲノム

編集食品の安全に関して検討されてきた内容は、『食品衛生法』『カルタヘナ法』に基づいたもので、いずれに照らし合わせても規制対象にはならないという判断です。提出署名緊急院内学習会では、各省庁や食品安全委員会の担当者との意見交換の場がありましたが、参加者側との会話が全くかみ合わず、かなり歯がゆいもので終わってしまいました。終盤、規制はできなくとも届け出という方法があるので…とお茶を濁した感じになりましたが、この届け出も義務化はされそうにありません。



意見交換に出席した各省庁の担当者

ゲノム編集食品は、誰が望んでいるのでしょうか。消費者が望んだ食品ではなく、生産者が望んだ栽培(もしくは育成)方法でもないはずで

自分たちが育てるもの、自分たちが食べるものの正体を知る権利すらなく、しっかりと検証もしないのに安全と言われても、誰が安心できるのか。警鐘を鳴らす専門家は多く、急ぐ日本とはまるで違う判断をしている国もあります。今後も、ゲノム編集に関する私たちの活動は続きます。

副理事長 高野恵美子

40周年
生産者が語る
いっしょに歩んだ40年

40周年を迎えるあいコープには、一緒に歩んできた生産者がたくさんいます。10回にわたり、そんな生産者の皆さんのお話をご紹介します。



小牛田のいちご/佐々木貞美さん
『いちごと言えば貞美さん』と言われるほど香りが高いいちごを育てています。

あいコープの前身である仙台共同購入会が生活協同組合になる前からの付き合いです。今はうち一軒となった生産組合も、当時は生産者が9人もいたんです。共同購入会の職員さんは小牛田までいちごを受け取りに来ていました。

あの頃は『ダナー』という品種を育てていて、冬場は苗を冷蔵庫で眠らせたり、ハウスの中で畝ごとにシートを3重にしてトンネルを作ったりと、今以上に大変な作業をしていました。それでも頻りに理子さんも組合員さんも会いに来てくれたので楽しかったですよ。市場に出荷するのと違って、直接美味しくないだのなんだのって言われるものだから(笑)、それを嫌がる仲間もいたけれど、私

はそれが好きだったし、顔を合わせて本音で交流するのが、生協なんでしょうね。

私たちは、本当にあいコープに育ててもらいました。なんにも分らない所から一緒になって『どういうものを食べたいか』を対等な立場で考えて色々やってこれたんです。これからのあいコープでも、一方的に考えを押し付けるのではなく、お互い悪い所を直しつつ、何でも言い合える関係を続けてください。 佐々木貞美

私たちにとって当たり前になっていく『土壌消毒剤不使用の完熟いちご』。貞美さんを初め、先人たちが本音でぶつかり合ってきたからこそ賜物のようです。『どういふものを食べたいか』を共に考え続ける生協でありたいと思いました。

PB (プライベートブランド) をより身近に わかりやすく

「PBブランディング実行委員会」が活躍中!

大手スーパーなどで展開する「PB (プライベートブランド) 商品」を思い浮かべてください。「このパッケージのシリーズは同じような商品でも他よりちよつとお得」と手に取ったことがある方もいらっしゃるかもしれません。

あいコープにも数多くのPB商品が存在します。しかしあいコープのそれは決して「他より安くてお得」という意味でのPBではないのです。たまご、牛乳、みそ、しょうゆ。どれも組合員と生産者の想いがつまった自慢の商品です。単にお買い得というわけではなく(同等の物を生協以外で購入したらもっと高額になるという意味ではお買い得ですが)、愛情をもって育ててきたまさにプライベートな(私的な)商品です。

しかしこれまで「PB」と区分されてきた商品にしっかりと色分けがなく、まんま通信を見ていてもどこを見ればPB

と判るのか、知る人ぞ知る...という現実はありませんでした。そこを判りやすくして、もっと多くの人に自慢のPBを利用してもらいたい! 目に留めてもらいたい! という願いから、昨年末

「PBリ・ブランディング実行委員会」が発足。現在、職員、組合員と生産者に加えて専門家の意見も取り入れ、ネーミングからパッケージまで、より親しみやすく素敵なPBにするために試行錯誤しています。

今秋、生まれ変わるPBにどうぞご期待ください!



「親しまれるブランド名やロゴを!」
専門家を交えて検討しています

2011年3月11日

マグニチュード9.0の大地震、大津波で、日本が文字通り揺れました。多くの尊い命が失われ、大切にしてきたものは奪われ、私たちに大きな喪失感が襲いました。海水が引いた圃場を、壊滅した工場を見て、途方に暮れた生産者もいました。そして、原発事故による放射能もまた、私たちの大切な生産者の生産現場を脅かしていました。



震災直後の高橋徳治商店の工場



震災直後の七郷の圃場

「直ちに健康に影響はない」という政府の発表には何の安心感もなく、放射能に怯える日々が始まりました。隣県で起きている重大な事態。それなのに何が正しいかわからない中では家族や友人とでさえ本音で不安を語り合う事が出来ず、不安を感じる人ほど孤立していく重苦しい毎日。「心配するのが神経質」という空気の中、放射能の話題は避けられ、何を食べていいの?と不安は募ります。とうとう、あいコープにも「西日本の野菜を扱って欲しい」という声が聞こえてきました。

あいコープがずっと大事に育ててきた「地産地消」で「安全で美味しい食べ物をお届けする」というポリシーが、培ってきた地場の生産者との絆が、危機に瀕していたのです。



「放射能汚染を測って わかって食べる」

供給したくてもできない現実もちろんありました。例えばしいたけ。キノコや山菜は多くが出荷停止となり、県南のあるしいたけ生産者は廃業を選択しました。暫間的に供給を開始した九州のしいたけは、長旅で傷むことがあり、安定供給とはいきませんでした。

長年供給している静岡の茶葉からもセシウムが検出され、生産者は泣く泣く刈り取って処分しました。どこまで汚染されているのか、どの程度の汚染なのか、それがわからなければあいコープが求め続けてきた「食の安全」を繋いでいくことはできない…。

国や県が叫ぶ根拠のない安全論や、無暗な「食べて応援!」ではなく、きちんと測り放射能汚染があるかを調べ、基準値をクリアし



た食品だけを供給すること!それが組合員も生産者も守ることだという決断を下したあいコープ。

生産者と協力して土壌の放射能測定を丁寧に行い、収穫後は作物に汚染が移行していないかを調べました。まさに自分の目で、手で、信じられるものを見分ける力を培って行ったのです。それと同時に、供給する全ての食品について放射能の自主測定をする体制を整えました。2011年8月26日の河北新報は、測定を積極的に行わない『公』を待たず独自で測定を始めたあいコープの姿を報じています。食品の全品検査(一次モニタリング測定)を続けたことにより、汚染される可能性が高いもの・低いものがはっきりとわかるようになってきました

測定し続けたから見えたこと そしてこれから

2016年10月には、特定の品目をより精度の高いゲルマニウム測定するという新しい測定体制を始めました。今までに汚染が確認されたことがあるものを重点的に検査できるようになったのは、開始当時の丁寧な検査体制があったからこそ。初めは国の基準値が許容できるのかさえ手探りでしたが、2012年には既に、あいコープ独自の国より厳しい自主基準を定めて食品を供給し、現在に至ります。

今でも毎週必ずお届けする放射能測定ニュースで、計測の限界値まできちんと表示し、「セシウム不検出だったから(または基準を下回ったから)供給する」という事ははっきりお伝えしています。組合員は結果を見て、自分の判断で「わかって食べる」ことができます。



2016年から現在の放射能検査活動

丁寧な放射能測定を続け食材の素性がはっきりすることで、主食のコメや乳幼児が多く摂取する牛乳、毎日飲むお茶も安定供給され続けています。2015年にはようやく県内産しいたけの取り扱いを再開!組合員が産地を訪れ交流もしています。一度は崩れかけ、しかし徐々に力を取り戻しつつある「あいコープが目指す地産地消」。これは生産者の努力と、生協の決断と、組合員の想いで、団結して放射能汚染に立ち向かってきた結果です。

あいコープは安心な食材を求める組合員と、復興に向けて頑張る生産者を繋ぎ、東北の「食」を守るとともに、二度とこんな思いをしないためにも原発・放射能汚染問題にも取り組んでいきます。



2015年6月「まんま通信」で 県内産しいたけの供給再開!



しいたけ生産者と交流する組合員 (東和町の芳賀さんの圃場にて)

あいコープはこれからも 自分たちの目で確かめながら 地産地消を守っていきます

「あいコープみやぎ日の出さんさん発電所」誕生!

昨年末募集した「あいコープみやぎ日の出町センター屋上の発電所の名称」に、短期間で38件のアイデアが寄せられました。厳正なる投票の結果、得票数が最も多かった『日の出さんさん発電所』に決定となりました!

1月にはパネル設置が終了し、2月からは発電所のでんきであいコープの冷凍庫などが動いています。完成を記念したイベントも目下計画中!今後のお知らせにご注目ください。



パネルが敷き詰められた屋上

種子(たね)に注目! これは何のたね?最終回



貴重な貴重なたねです。お店では買えません。愛情たっぷり、思い入れたっぷりの、たね。

答えはP6下段。



誰もが安心して暮らせる社会を

「誰かが安心して暮らせる社会を」

ジョイケア企画
第2回ケアメイト研修会報告

食事ケアにもお役立ち

白菜丸ごと使って簡単おかず作り♪



メニューは、白菜塩もみポトフ、ミルフィーユみぞれ鍋、白菜ロール(味付け4種)、白菜のとうろと中華あんかけ、塩もみ浅漬けの5品です。聞いただけでも「美味しそう♪」ですよ。

1月23日(水)、宮城野区中央市民センターにて、第2回ケアメイト研修会を開催しました。

「NPO法人とうほく食育実践協会」の食育コンダクターさん講師のもと、たすけあいの食事ケアや、普段の食事作りにも役立つような、白菜1個使いきりレシビを教えてくださいました。

調理方法の他に、新鮮な白菜の見分け方や、白菜の保存方法なども教えていただき、「白菜丸ごとなんて買ったことないわ!」という参加者の方もすぐに実践してみたいくなるような素敵な講座内容でした。調理の間にはケアに関する情報交換もでき、寒い時期でしたが、心もお腹も大満足の美味しい研修会となりました。

今後も、ケアメイトの皆さまに喜んでいただけるような講座を企画して参りたいと思います。

ジョイケア事務局

阿部陽子

まんま通信のあるくらし

1/31(木)
宮城野地区
企画報告

「遺伝子組み換えルーレット」を上映



1/31、あいコープ日の出町センターで、『遺伝子組み換えルーレット』上映会を開催しました。

最初に高野副理事長より遺伝子組み換え食品(以下GM食品)に対してあいコープが取り組んできた活動の歴史や、現在の政府の対応、GM食品の現状についてお話し頂きました。あいコープは、1997年以来、GM作物や食品に警鐘を鳴らす活動を行っています。組合員への情報開示や、GMイネの実験栽培に抗議、GMナタネ自生調査などを行っています。

「ただ、安全な食品を大事な人に食べさせたいだけなのに…」という高野副理事長の言葉が印象的でした。

その後、『遺伝子組み換えルーレット』を上映しました。アメリカでは、およそ30〜40年前にGM食品が登場してから腸炎、アレルギーや皮膚炎、不妊症、自閉症などが増え始めています。決定的な因果関係はまだ解明されていませんが、遺伝子組み換えで導入されたBt毒素の影響が疑われています。GM食品がもたらす悪影響、知らずに食べていくか、知って選んで食べていくか。「無知は罪なり」というソクラテスの言葉を実感した内容でした。

アメリカでは母親たちがGM食品反対運動を立ち上げるなど、世界各地に運動が広がっています。日本でも運動をさらに広げていくため、今後もGMOに関する学習会や上映会を行ってまいります。

理事会議事録抄

2019年2月5日(火)

▼2018年度活動報告案の策定について協議した。▼2019年度活動方針案策定について協議した。▼2019年度の組合員活動について協議した。▼「あの渡辺さんとあずきを育てよう!」企画書を承認した。▼月次経営報告を承認した。▼あいコープ農産物の独自新栽培区分を承認した。▼たまごモウルドバックの暫定デザインを承認した。

組織概要

(2019年1月分)

【組合員数】	13,185名
【供給高】	174,777千円
【一人実利用高】	5,210円/週
【出資金】	1,136,526千円



●P4の答え 「あの渡辺さんと育てたあずき」秋保の畑で育てた、無農薬栽培のあずきです。2019年は自分たちで選別したこの自家採種あずきを育てます♪ 編集部

仙台えんのう倶楽部総会報告

畑で組合員活動を支える「縁」の下の力持ち

2年目となる仙台えんのう倶楽部では現在登録されている会員は26名で、そのうち15名の方が出席し総会が行われました。

仙台えんのう倶楽部の活動は組合員活動の「田んぼにいうー」や「畑に行こうー」などの準備から当日の指導、収穫までの管理などを行ったり、産地の繁忙期に農作業の支援をする援農活動が主なものです。

いつも田んぼや畑でお会いする時は手際よく作業をこなし、色々なことを知っている頼もしい



い存在ですが、この日も今年度の活動を振り返り、来年度の計画を立て、それに対し活発に議論がなされていました。

私たち組合員が楽しくかつ安全に農作業の体験ができるのは、仙台えんのう倶楽部のみならずの多大なサポートの下に行われていたのだということに改めて気づかされました。

安心安全な食べ物を自らの手で作る、仙台えんのう倶楽部のホームと言われる七郷圃場ではたくさんさんの農産物が作られているそうです。たくさん収穫できることもあれば、種から無農薬で作りたいという思いを優先したがゆえにうまく成長しなかつたなど、苦労もあるようです。

仙台えんのう倶楽部は組合員なら誰でも参加可能とのこと。私も参加してみたいと思いました。

理事 阿部 麻利子



再エネシンポジウムで
あいコープを紹介



脱原子力、脱炭素社会を巡る世界の動きは加速度を増しており、電気・輸送燃料・熱において再エネを目指す「Re100」宣言する都市が日本でも増えてきています。

1/26、この流れを学ぶシンポジウムが開かれ、みやぎ地域エネルギー合同会社の浦井氏からはあいコープの屋上に完成した市民出資・自家消費型太陽光発電所モデルについて、パルシステムでんきの発電産地「ひっぽ電力」金上氏からは発電をめぐる法規制やメガソーラーの動きについてそれぞれお話があり、あいコープみやぎからは脱原発の活動とでんき小売り事業の紹介を致しました。今後も再エネへの関心が高まる取組が出来ればと思います。

理事 大滝満雄

編集後記

3月号が組合員の皆さんの手元に届くころには、二つの県民投票についての結果が出ているでしょう。

ひとつは沖繩の辺野古に新基地建設の是非を問う県民投票の投票結果。もう一つは女川原発再稼働の是非を問う県民投票条例案に宮城県議会が出す結論。沖繩と宮城、軍事基地と原発。二つの県民投票は別々のようで実は関わり合っているように思えます。どんな結果になっても県民投票を求めたエネルギーは、公文書も統計も安全検査も嘘にまみれたこの国に残された希望だと思えるのです。

組織運営室室長 豊嶋馨

● 機関紙あいあいあいのご意見・ご感想

組合員番号、氏名、電話番号をお書きの上、
配送もしくはFAX (022-284-6973) にて、
あいコープみやぎ理事会広報宛にお送り下さい。

組合員の皆さんの『つばやき』も大募集中！

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



022-284-7277 平日 9:00~17:00

3/12(火)・・・法律相談 弁護士 松澤陽明氏
13:30~15:30

3/12(火)・・・年金相談 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

3/15(金)・・・思春期相談 臨床心理士・スクールカウンセラー 北條貴子氏
9:30~11:30

3/19(火)・・・くらしの相談 消費生活専門相談員 加賀淳子氏
10:30~12:30

3/19(火)・・・子ども相談 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
10:00~12:00

▼各相談窓口前週の日曜日まで予約して下さい。随時受け付け可能です。▼
▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。

ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい)/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2018年12月分)

ささえあい(保障)	1件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	33件	利用延べ人数	68名
集団託児	25件	◆ケア時間	
慶弔・出産	20件		193時間
電話相談窓口	3件		
計	82件		



●漬物や練り物、加工品は添加物無添加のものはまず見つからない。手作り出来ない時に有難いあいコープのラインナップ。

ていねいなくらし

手をかけて、気持ちを込めて
時間をかけて作り上げる幸せ。
丁寧に暮らす贅沢をご一緒に。

その九、寒仕込みの味噌



味噌づくりの手順

- ① 豆をよく洗って一晩水にひたす
- ② 豆を煮る(圧力鍋でも可)
- ③ 豆をつぶす
- ④ 塩と米麴、豆を混ぜてみそ玉をつくる
- ⑤ 樽やホーローの容器に隙間なく詰める
- ⑥ 熟成させる(半年～1年)

仙台味噌の割合…豆 2.2 : 麴 2 : 塩 1

詳しいレシピを知りたい方は下記までお問い合わせください。
0120-255-044 組織運営室 豊嶋

1月も下旬になると、いつ仕込もうかな、と気分は味噌づくりモードに入ります。味噌はどの季節でも仕込むことが出来ますが、この時期がいちばん適している気がします。あいコープのカタログまんま通信に、手作り味噌や仕込み味噌のセットが登場するのもこの時期。1月25日、太白地区委員会で宮城県産大豆を使用した味噌づくりイベントを開催し、29名が参加しました。ひとり自宅で黙々と仕込む作業も没頭できていいのですが、皆でお話しながらの仕込みもこれはこれで楽しい。ましてや鎌田醤油の鎌田専務のレクチャーを受けながらとあっては、充実感たっぷりです。55kgもの味噌仕込みは、豆をつぶす作業がかなりの重労働で、後半には口数が少なくなりましたが(笑)

いずれにせよ、自分で仕込む味噌はいいものです。



Calendar *今後のイベント*

3/6 水
2019年度農産学習会
あいコープの安全・安心な
農産物のひみつ
～オーガニックへの挑戦～

場所/ 日立システムズホール仙台
時間/ 10:00～12:00 参加費/無料

3/7 木
布おむつの会
布おむつ談義
～こんにやく湿布で冷えとり～

場所/ あいコープ日の出センター(2階会議室)
時間/ 10:00～12:00 参加費/200円

3/7 木
ウェルカムパーティ in 若林

場所/ 七郷市民センター
時間/ 10:00～12:00 参加費/300円

3/13 水
青葉A地区
自家製お醤油作り

場所/ 木町通市民センター 調理室
時間/ 10:00～13:00 参加費/800円

委員オリエンテーション

4月の各地区定例会に加え、2か所で開催されます
4/3 あいコープ日の出センター センター見学
5/16 トークネットホール仙台(仙台市民会館)

地区委員さん募集中! 一定例会見学も受付中～

地区委員会は

楽しい!
おいしい!
学べる!!

あいコープの仲間だから
本音トークができます。

お問い合わせ先
☎ 0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop



(担当: 組織運営室長 豊嶋)